

令和元年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「土砂災害およびその防止対策に関するもの。」

岡山県岡山市立芳泉小学校 5年 池田 詩乃

昨年7月、西日本豪雨がおそってきた。岡山県で、もっとも被害が多発したところは、倉敷市真備町だった。住宅や家、真備全体が水につかってしまった。西日本豪雨から間もなく一年が経つ。被災者の多くの方が、今でも大変な生活を送っていた。わたしは、新聞を見て感じたことがある。それは、倉敷市真備町の復興を応援しようと、県外から支援に当たる人がたくさんいることを知った。県外から来て下さるなんて、とてもすばらしくて、感動した。真備のみなさんは、どれだけうれしいだろうかと思う。

わたしは、学校のじゅ業で防災について学んだ。このような大きな災害がおこったときに、どのようににげればよいか、どのような持ち物を準備したらよいか、災害がおこったときに家族でどこに集まればよいかなどいろいろなことについて学んだ。じゅ業で学んだことをまとめて防災ノートを作った。防災ノートの内容は、災害がおこったときに必要なもの、家族での集合場所、きん急連絡先などを書いた。防災ノートは、災害がおこったときに大切なノートだと思う。わたしは、これをきっかけに家族で話し合いをした。一番良いひなん場所はどこか、家の中できけんな場所・安全な場所など家族みんなできくることができた。話し合いをすることによってより大切さを感じた。

岡山県では、今から85年前の1934年9月21日、岡山をおそった室戸台風があったそうだ。室戸台風は、高知県の室戸みさきへ上陸し、近き地方へ進んだ超大型台風。室戸台風による岡山県内の被害は、死者・行方不明者152人、全半かい家屋3417戸だそうだ。全半かい家屋は、家が全部台風によってはかいされたと言うことだ。旭川、吉井川、高はし川の三大河川がはんらんして民家がこわれ流されていった。新聞で見た写真でも生々しく、何度考えてみてもわたしは、とてもおそろしくこわくなった。昔にもこのような災害があり今、ニュースで南海トラフ巨大地震がいつか来るとそうていされている。多くの県が土砂災害など被害が出ると予想されているのでまずは、自分の命を守ることが大切だと思う。

わたしにできることは、学校でおこなっているひなん訓練だ。1回を大切に本当にひなんしていることを意識して真けんに取り組もうと思う。わたしが通っている小学校は、全校生徒や先生方が多くたくさんいるので、もし何かがおこったときでも、安全にみんなが無事にひなんできることが大切だ。

学校では、「お・は・し・も」をくり返し先生が言っている。「おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない」をてっていしているので、「お・は・し・も」をきちんと守り、学校にいるみんなが落ち着いて、一早くひなんできたらいいと思う。

夏休みに入り、わたしは家族で真備町へ行ってみた。一年前と比べて道路も家もずい分きれいになっていたように思ったがしかし、中へ入って行くと病院などのしせつはやめてしまったり、直していたりとまだまだ時間がかかりそうだった。

真備の復興を応援するポスターがたくさんあり、わたしは一番に目に入った。それほどここで大きな災害があったことを実感し、わたしはとても悲しくなった。でも、みんなで助け合い、協力し合いこの思いを大切にしていることを知った。今、川やていぼうなどの工事が進められている。早く住みやすいかんきょうが作られることを願って、これからも災害について関心を持ち学習していきたいと思う。